

# ※ 兼用型圧着ソケット使用説明書

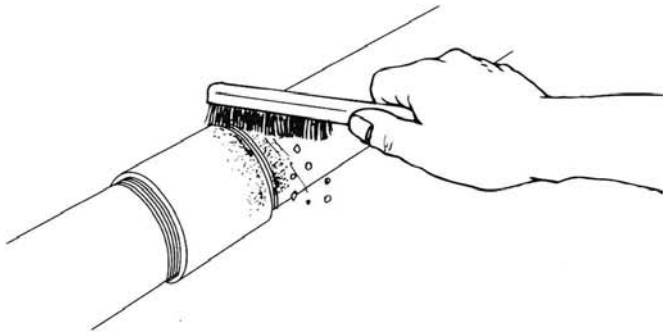
※兼用型とは、「継手と直管との接続部からの漏れ」及び「直管本体からの漏れ」の2ヶ所を補修することができるという意味です。パイプの種類により、鋼管用・銅管用・塩ビ管用の3種類の兼用型圧着ソケットがあります。

圧着ソケットはパイプの運転を止めずに、漏れ補修の出来る画期的な補修器具です。しかし取り付け順序を間違えますと、十分な性能を発揮しませんから必ず下記の方法で行って下さい。

## 継手部の漏れ補修

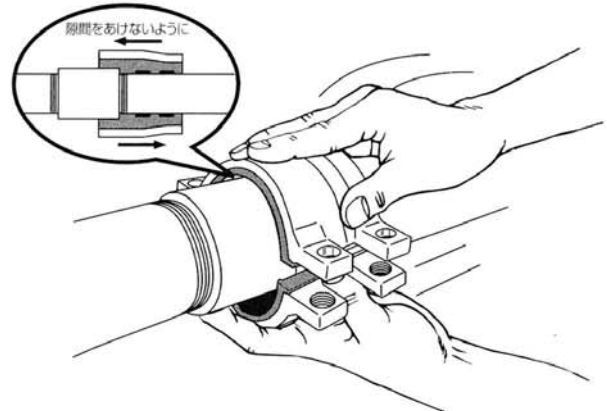
チーズ・エルボー・ソケット等の継手とパイプとの接続部よりの、漏れの補修を行います。

1



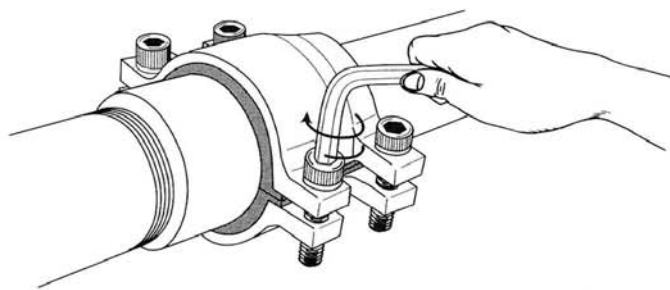
補修部分のサビや汚れをワイヤブラシ等でおとします。サビこぶ等の付着物はノコ刃等で確実に落とし段差部を直角に仕上げして下さい。

2



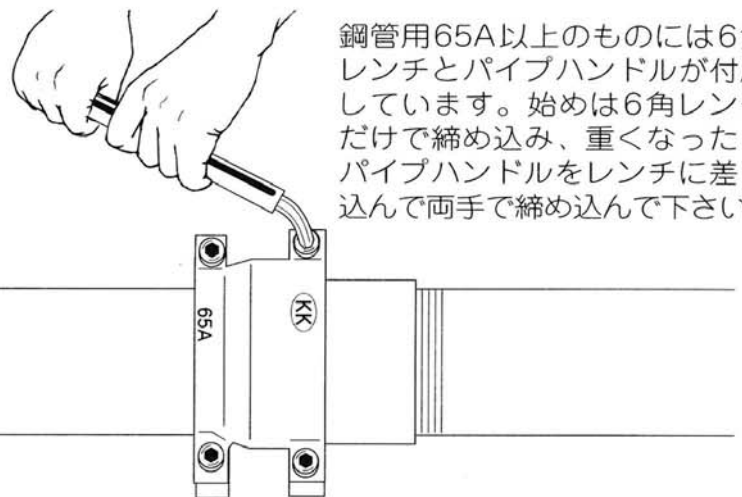
パイプと継手の段差部の上に圧着ソケットのゴムの段差をきちと合わせてスキマのないように取り付けます。

3



圧着ソケットの耳部のネジ穴に取り付けネジを差し込み全部の取付けネジを偏締めしないように均等に締め込み漏れの止まるまで続行します。漏れが止まった時点で、更に1/4回転程度増し締めを行って下さい。

4



鋼管用65A以上のものには六角レンチとパイプハンドルが付属しています。始めは六角レンチだけで締め込み、重くなったらパイプハンドルをレンチに差し込んで両手で締め込んで下さい。

## 直管部の漏れ補修

圧着ソケット内面の直管押さえ部分(直径の小さいほう)のみを使用します。漏れ箇所に圧着ソケットの湾曲部の一番深い部分(中央部分)が当たるように当てがい、上と同様に4個の取り付けネジを偏締めにならないように均等な力で締めていきます。また鋼管及び銅管には、直管専用型圧着ソケットがありますのでそれをご使用頂くほうが理想的な漏れ止めとなります。

## その他

1. 圧着ソケットは、高い温度や表面の傷んだパイプに使用された場合、ゴムの寿命は短くなりますので、予めご了承ください。ただし、新しいゴムに交換していただくことによって長期にわたる補修も可能になります。また一度取り付けられた圧着ソケットを他の箇所に再使用される場合も、ゴムは新品のものと取り替えていただきますよう、お願い致します。(交換用ゴムは、圧着ソケット型番をご指定の上、販売店にお申し付けください。)
2. 圧着ソケットはパイプどうしや、パイプと継手を接続する事はできません。よって接続部の劣化等により、圧着ソケットを取り付けた箇所がはずれてしまう恐れがある場合はご使用にならない様、お願い致します。

## ▲ 安全にご使用頂くために

1. 圧着ソケットは、誤って足の上に落としますと怪我をすることがありますから、絶対に落とさないようご注意ください。また安全のために作業中は安全靴を着用して下さい。
2. 特に高所で取り付け作業をするときは、下に人が居ないことを確認した上で、作業をして下さい。また落下防止の対策を行ってから作業して下さい。
3. 作業をするときは必ず軍手等の保護具を着用し、怪我を防止して下さい。
4. 温度の高いパイプの補修をするときは、火傷をしないように、運転を止めてパイプ温度を下げてから行って下さい。
5. 圧着ソケットの能力以上の圧力のあるパイプの補修は行わないで下さい。

各圧着ソケットの能力

圧着ソケット種類	耐圧力	耐熱温度
鋼管兼用型	2MPa (20Kgf/cm <sup>2</sup> )	-30~130℃
鋼管直管専用型	2MPa (20Kgf/cm <sup>2</sup> )	-30~130℃
鋼管マルチ継手型	1MPa (10Kgf/cm <sup>2</sup> )	-30~130℃
銅管兼用型	1MPa (10Kgf/cm <sup>2</sup> )	-30~80℃
銅管直管専用型	1MPa (10Kgf/cm <sup>2</sup> )	-30~80℃
塩ビ管兼用型	1MPa (10Kgf/cm <sup>2</sup> )	-30~90℃

★このデータは当社内での試験値であり、保証値ではありません。ご使用にあたっては、目的の条件に適用できるかを十分にご検討下さい。また、当社の製造上の原因とみられる不良があった場合は新品とお取り替え致しますが、本製品を取り付けたことによる直接あるいは間接的に生じた損害の責はご容赦願います。

# 児玉工業株式会社

大阪市西区新町3丁目7-5  
TEL (06) 6541-4827 / FAX (06) 6541-4826